

結局、「移転」というのは 米軍訓練拡大のための方便

～7回目の日出生台米軍訓練から見えて来たもの～

ローカルネット大分・日出生台 浦田 龍次



No.191号
2010年3月8日
発行人 宮崎 優子
事務局 日高 礼子
☎ 097-545-3134
FAX 097-545-3134



日出生台の空に撃ち上げられた照明弾は約2分間かけて落下した（2月8日）

2010年2月、大分県の由布市玖珠町九重町の1市2町にまたがる日出生台演習場では、4年ぶり7回目となる米海兵隊による実弾砲撃訓練が進行された。私たちが演習場の周辺住民と大分県内の市民で構成する「ローカルネット大分・日出生台」は、米軍滞在期間中の約1ヶ月間、可能な限りの抗議行動と、演習場を見下ろす高台の畑に監視小屋を設置、11日間の米軍演習の監視行動を行った。今回、米軍が日出生台で実弾砲撃演習を実施した10日間という日数は過去最長。総砲撃数603発も過去最多。さらに、今回、米軍は、日出生台では初めて小銃機関銃による実弾射撃訓練を実施。これまで、日出生台においては「米軍使用協

定」によって、米軍は155ミリの榴弾砲のみしか使えないとされていた。しかし、2007年、同協定は、米軍の要請を受けて、155ミリの榴弾砲だけではなく、その他の複数の種類の武器が使えるように変えられていた。さらに、今回、米軍は日出生台での訓練で初めて照明弾39発と発煙弾35発を撃った。照明弾は間に包まれた日出生台の空と大地を煌煌と照らしながら2分間かけて落下。発煙弾は着弾地の上空で炸裂し、無数の小爆弾に分散し、白い煙を大量に出しながら着弾。2月21日の朝日新聞朝刊は、この砲撃を「白リン弾」であると米軍が認めたことを報じた。白リン弾は米軍がイラク・ファルージャでの戦闘で使用し、またイスラエルがガザ地区に撃ち込み、批判された残虐兵器。米軍はこの白リン弾35発を私たちの故郷、日出生台の地で砲撃した。これらの照明弾、白リン弾の砲撃直後には、2件の火災が発生。火災発生も日出生台での米軍訓練では初めてだった。

さらに、今回、特徴的だったのが情報開示の大幅な後退。防衛局は前回まで公開していた、米軍車両、155ミリの榴弾砲、物資などの陸揚げ搬入日程を完全に非公開とした。これは、99年の1回目から非公開となっている弾薬輸送日程（前回（07年）から非公開とされた米兵の集団外出日程に続くものだ。さらに米軍部隊の到着日程も99年の訓練開始当初が1ヶ月前、前回が1週間前、今回が4日前とほとんど非公開の仲間入り状態。

米軍はその理由を「テロの危険性」部隊の安全のため」としている。テロの危険性云々というのが本当なら、やるべきは米軍部隊の移動情報を隠すことではなく、米軍部隊の移動そのものを中止すべきだ。大分県民の安全よりも米軍の安全が優先されている。もともと「沖縄の県道104号線越え実弾砲撃演習の移転」との説明が始まったこの訓練は、10年の歳月を経て、いままや米軍が必要とするあらゆる訓練を実施する場へとその質を大きく変えてきている。「移転」という表現は、米軍が新たな訓練拡大強化の足がかりをつくるための方便、大義名分に過ぎなかったことがはっきりとしてきた。

普天間基地の「移設問題」も「移設」先探しに明け暮れることは、機能強化された最新の基地を欲しがっている米軍の思いつくだろう。どこかに「移転」「移設」ではなく、その場で「なくす」こと。日出生台でも普天間でも解決はそれしかない。



白リン弾の7連射。この直後に日出生台で初めての火災が発生した（2月3日）

2月13日(土)。朝5:30に目覚ましをかけていたが、どうしたことか10分前には目が覚めた。年かな……。 「赤とんぼ」の資料だけは忘れてならじ、と確認して家を出る。JR、飛行機、モノレール、山手線と乗り継いでようやく水道橋に到着した。気がつけば昼。近くの韓国料理屋に入り、会場の場所を尋ね、石焼きビビンバをいただく。チャル・モッケスムニダ。会場につくと全国からの参加者が受付でごった返していた。1時30分、開会。「第9条の会広島」の藤井さんの司会、富山洋子さん(日本消費者連盟)の開会の挨拶のあと、早速講演が始まった。

渡辺治さん(一橋大学教授)のお話では、元気の出る視点を与えてもらった。

新安保50年を今年迎える。一見、対米従属の50年に映るが、そうではなく、安保による日米軍事同盟の実質化の動きとそれに対抗する勢力との対抗の50年だった。私たちの側の運動がなければ、もっとすんなりと安保は雄腕を振っていただろうし、九条もなくなり、戦争参加も行われていたかもしれないのだ。さらに、これまでの9条を中心にした運動だけではなく、25条の復権とそれを具体化する対抗構想が必要だ。新しい福祉国家構想、社会保障基本法などがそれ。身近なことにこそ憲法を実現する材料がある。

次に、赤石千依子さん(ふえみん婦人民主新聞編集長)のお話があった。これも、改めて今ある問題をクローズアップしたものだった。赤石さんは「NPO法人しんぐるまざあず・ふいーらむ」理事でもある。その視点から、女性の貧困問題をすどく捉えた話だった。日本は単純に言うと、男が外で働き、女が家で家事をする、ということをしてきた国。女性は男性に比べて非正規雇用、パート・アルバイト、派遣社員、契約社員が多い。半数以上が非正規で働いている。85年に雇用機会均等法ができたが、結婚すれば退職を促され、子育て時期を通して、家事労働～性的役割

許すな! 憲法改悪・市民運動全国交流集会

～ 主権者は私たち～

参加報告 池田年宏

2/13・14

分業～が押しつけられる。再度働こうとしても、待っているのは非正規雇用。同じ仕事をしても賃金は押さえられ、なおかつ家ではあいかわらず家事。シングルではなおさら経済的にきびしくなる。子どもの貧困にも直接結びつく。経済の貧困だけでなく、このことは社会あり方の貧困、ひいては教育の貧困につながると思った。

次に沖縄の加藤裕さん、市民連絡会の高田健さんから「報告」ということでお話があった。加藤さんの話からは、名護市長選にまつわるお話やその後の普天間基地「移設」問題の捉え方について考えさせられた。そもそもなぜ移設先をわざわざ探してあげなければならないのか、など数々の矛盾点を指摘された。また、高田さんは、今年5月18日に予定される改憲手続き法をどうするか、問題提起を行った。マスコミすら「国民投票法」という言葉を使っているが、間違いである。改憲手続き法(日本国憲法の改正手続きに関する法律)という正しい言葉の使い方から運動を始め直したい、とのこと。また、新しい政権に代わったが、「どうなるのか」という傍観者のな態度でなく、主体者として「どうするのか」という態度で行動を起こす必要がある、と訴えていた。

夕食をはさんで、その日は夜9時まで、二日目も朝からたっぷり各地・各分野から報告する交流集会があった。大分からも赤とんぼの報告を行った。今、考え行動すべきことについて多くの示唆をもらい、充実した2日間だった。参加の機会をいただき、ありがとうございます。



春の総会



赤とんぼの会

4月11日(日) 13:30～

大分市
市民活動・消費生活
センターライフパル
2階会議室(5番街)

今年の意見広告について
話し合います。
お待ちしております。

倉兼一二さんの二つの自著

倉兼一二さん（九十才）の人生ほど戦争・平和・祈り、創造・挫折・再生に満ちたそれを私は知らない。倉兼さんは太平洋戦末期のニューギニア島で二百数十万の大半が飢えと疲労とマラリアで死亡するという、凄惨を極めた日本軍の退却を生き抜き、戦後持ち前の創意工夫の才で、日本・パラグアイ両国において農業・酪農での成功と、思わぬその挫折を数度味わう。しかし一方で不条理で無念な死を遂げた戦友や他の日本兵のことを常に忘れず、誠実に人生や命、国とは何かを考え抜く。数年前の大病をきっかけに、それらの人生体験が警報のように本人をせき立て、資本主義の業と弊害を説いて、それに染まらない人生と国のあり方を世に提言したいと願う。

真心からの訴えであるその二つの随想は、互いに響きあい、どんな本よりも豊富で多彩な真実と教訓を教えてくれる。



「漠の戦争」

マラリア、そしてジャングルや数千メートルの高地が兵を苦しめる南方戦線に、領土と資源獲得の国策のため狩り出され無為に死亡した日本兵の苦しみと無念さを描いたドキュメントは他にもあるが、この著書には自己と周辺の様々な人間（日本軍支配下にあった中国

れなかった。
「ひたすらにただひたすらに生きるべし、さだめは天にゆだねるべし」。

「漠の百姓放浪記」

倉兼さんは復員後北海道・福岡・大分の後、パラグアイで農業と酪農による、家族だけで自給自足可能な規模の事業への信念とそ

倉兼一二さんの人生・教え・訴え

くらかねいちじ

人や人食い人種、飢餓により人肉を食べるまでになった日本人兵士を含む）の哀れを謙虚に優しく受け止め、愚かしい国策や戦略への鋭い懐疑も静かに吐露される。

「生きよという転身命令くださるも、次々こたえます手榴弾の音」。「我が耳に陛下万歳聞こえしはただ一度なり、それもコリアアぞ」。「緒戦より太平洋にわれ一人、戦犯と言われ死刑と言われて」。しかし大地に根付く生命再生の希望は最悪の状況下でも消して失わ



1月29日 日出町のお宅に伺いました。一二さんと妻の満さん。後の仏壇には戦没者を弔う2300の法名

の方法論を確立する。その信念はニューギニアでの退却経験に基づき、飢えの克服と、争いを生まない世界との両立を、個人および国家としてどう導き出すかという真摯な自己自問から得られた。だから移民理由となった日本の農業基本法と、移住先での事業を実際に挫折させた、日本政府による1986年の労働者派遣法（人買いか）1990年の出入国管理法改悪についての批判は厳しく、現在の日本のノー政が、日本を自給自足できず、戦争へと再度進む国にさせることへの憂いは深い。

倉兼さんは市民にとり 平和の無形文化財

「軍備兵器を使う力を世界の自然災害とその救援に、全力を挙げて努力してほしい。それが平和国家にふさわしい姿であり、日本の懺悔です。」平和の無形文化財とも言える人だ。

数奇な人生と叡智に富む提言は祈りと共に、次ぎのHPで3月末よりシリーズ掲載開始。

<http://www.anatakara.com/petition/index2.html>

（佐藤真喜子）

どろどろ虫のなごり



耳も目も不自由になって何をす
るのも億劫になり、「ごろごろと無
駄な時間を過す自分が嫌になる。
残り少ない時間の勿体ないこと。
結局、本を読む。友だちが読んだ
というから「姜尚中」の「悩む力」
これが又難しい本でなかなか読み
進めない。夏目漱石の本が度々引
用される。50年も60年も昔に読ん
だ本だから、殆ど忘れていて、友
だちは又新しく文庫本を買って伴
せて読んで見たという。その努力
に感心しながら、私はすっかり落
ちこむ。「悩む力」、悩みの力になっ
たようだ。やっと読み終って、勸
められたのが「差別と日本人」野
中広務と辛淑玉。お二人の対談も
間にある読み易い。けれども、
部落・在日などを中心に語られる
日本人の差別には、心苦しく、人

間の暗さに思い至る。深く感じら
れる本であった。知らないこと、
気付かないことばかりの自分自身
を恥じるばかりである。
500円玉は新しい時はとても
きれいだ。それでつい別の財布に
しまいこむ。といったも貯めるわ
けでもない。私の秘密のルートと
いう孫へのお小使いである。2枚
とか3枚とか、何かの時に手渡す
だけである。もう5枚もあげると
したら大盤振舞というわけで孫は
結構感激してくれる。孫にとつて
も私にとつても大金である。

鳩山さんちとちよこと違つなあ
500円玉がどれくらいで150
0万になるのかと思つたら、3万
枚だと…。数えるだけでも大変、
重さも大変、と私の頭は500円
玉にこだわっている。まあ、いろ
いろ批判もあるけれど、あること
にはあるものだと軽く考えよう。

(み)

5月3日の全国市民意見広告

呼びかけチラシを同封しました。

×切は4月12日、御協力よろしく!!

名もなきひとむれ
歩きます

5月3日(月) 13:30
大分駅噴水前

市民連絡会記念講演会

「どうなる? どうする?
あたらしい政権と憲法、
教育の行方」

3月13日(土) 13:30~

大分市コンパルホール

<講師> 大内 裕和 さん

<記念講演カンパ> 500 円

<連絡> 090-4583-8797 (池田)

5.3 憲法講演会

~100人の村から
憲法が見えた~



入場
無料

5月3日(月) 10:00~

大分県教育会館(大分市下郡長谷)

<講師> 池田香代子 さん

<主催> 平和憲法を守る会・大分
ほか

<連絡> 097-554-7704 (二宮)

声に出して読んでみましょう 憲法九条

『戦争の放棄、戦力の不保持・交戦権否認』

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒八七〇〇八五五 大分市豊饒四組 みんなの家
TEL・FAX 097(545)3134 <郵便振込> 015400012160
<ホームページ> http://aka-tombo.com/ <メール> aka-tombo@hotmail.co.jp

映画

アンダンテ~種々の旋律~

農業再生と
ひき込み女性の間回復

<監督> 金田 敬 さん

4月24日(土) 14:30~

NHKスタジオ キャンパス

<前売> 1,300円

<当日> 1,500円

<連絡> メディアチャンネル大分
097-551-0959



90歳からの訴え

赤とんぼの仲間、日出町の井上俊子さんが『「老」に追いかけるようにつくった絵本』です。味わいあるちぎり絵と共に権力への反骨精神を貫く井上さんの90年が綴られています。

<連絡> 配布料 2,500円

TEL・FAX 0977-72-3471

井上俊子とハッピーとモモ

マスクして この季節をまた

乗り越えん (れ)